

4. 成果の意義

- 県内で戦国時代の山城跡を全体的に発掘調査した例はほとんどなく、郭での生活や、防御施設の規模や配置など、石見地域の山城跡の実態について認識を改める発見となった。
- 普源田砦跡で出土した遺物の中心年代は、現在の浜田市西部を支配した三隅氏と益田市域を支配した益田氏が争った最後の時期であり、この地域の歴史を紐解く資料と言えます。

関 連 年 表

時代	西暦	益田氏・三隅氏の主な出来事	全国の主な出来事
平安時代	1086	藤原定道(国兼)、石見国府に着任 定住後、御神本氏を名乗る 益田川の河口付近に湊町が営まれ始める	白河上皇により院政が始まる
	1167		平清盛が太政大臣になる
	1184	4代兼高、源氏から石見国押領使に任命される	
	1185		壇ノ浦の戦いで平氏が滅亡する
鎌倉時代	1192	御神本氏が益田・三隅・福屋・周布氏等に分かれる	源頼朝が征夷大将軍になる
	1274		元軍が九州に襲来(文永の役)
	1281	元寇に備え、命により沿岸の要地に砦を築く	元軍が九州に襲来(弘安の役)
	1333		北条氏が滅亡する
南北朝時代	1336	三隅兼連、七尾城を攻める	南北朝の内乱が始まる
	1338		足利尊氏が征夷大将軍となり、室町幕府を開く
	1350	三隅城が高師泰に大軍で包囲される 三宅御土居築造される	
	1392		南北朝の合一
室町時代	1428	益田氏と三隅氏が争う	応仁の乱が起こり、東西両軍が争う
	1467		
	1479	益田氏は西軍、三隅氏は東軍として参戦 雪舟、益田兼堯像を描く	
	1489	この頃益田川河口近くの湊町が繁栄する	足利義政、銀閣寺を建てる
	1516		幕府が大内義興に対貿易の管理を命じる
	1517	大内義興が石見国守護となる	
	1518	洞明寺山で益田・福屋連合軍と三隅氏が戦う	
	1543		ポルトガル人が種子島に漂着し、鉄砲を伝える
戦国時代	1555	益田藤兼、岡見で三隅氏と合戦	敵島の合戦で毛利氏、陶氏を破る
	1563	益田藤兼、毛利氏と正式に和睦する	
	1573		室町幕府滅びる
	1578	宗像大社の遷宮に益田氏が大量の材木を寄進	
	1582		本能寺の変で織田信長が自害する
安土桃山時代	1590		豊臣秀吉が全国を統一する
	1600	益田氏、毛利軍に従い西軍に加わる 益田元祥、長門國須佐へ移る	関が原の戦い

普源田砦跡

編集・発行
 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
 〒690-0631 松江市打出町33
 TEL.0852-36-8608
 FAX.0852-36-8025
 E-mail.maibun@pref.shimane.lg.jp
<http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

三隅益田道路発掘調査事務所
 〒699-3226 浜田市三隅町岡見666
 TEL 0855-32-4175
 FAX 0855-32-4176



まいぶんくん

1. はじめに

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局からの委託を受けて、平成27年度から一般国道9号（三隅益田道路）建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を行っています。今回は、普源田砦跡の第2回現地説明会を開催し、みなさまに調査成果をご覧いただきたいと思ひます。

なお、調査にあたってご理解、ご協力をいただきました地元の皆様や、国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所、浜田市教育委員会を始めとする関係各機関の皆様方にあらためてお礼申し上げます。

2. 普源田砦跡の概要

普源田砦跡は、浜田市三隅町岡見の集落を通して日本海へ流れる岡見川右岸の標高約65mの丘陵上に位置しています。周辺には茶臼山城跡、碓石（いかりいし）城跡等の城跡が存在します。平成29年度までに行われた地表観察で、郭（くるわ）3か所、土塁1か所、堀切2か所、竪堀（たてぼり）4か所などの遺構が確認されていました。

今年度は、山城全体の約6,900㎡を調査し、竪穴建物跡1棟、掘立柱建物跡8棟以上、柱穴約400基、竪堀8か所などの遺構を新たに検出しています。

また、主に郭1から、1500年代を中心とした陶磁器や金属器、茶臼、硯などが約500点出土しました。

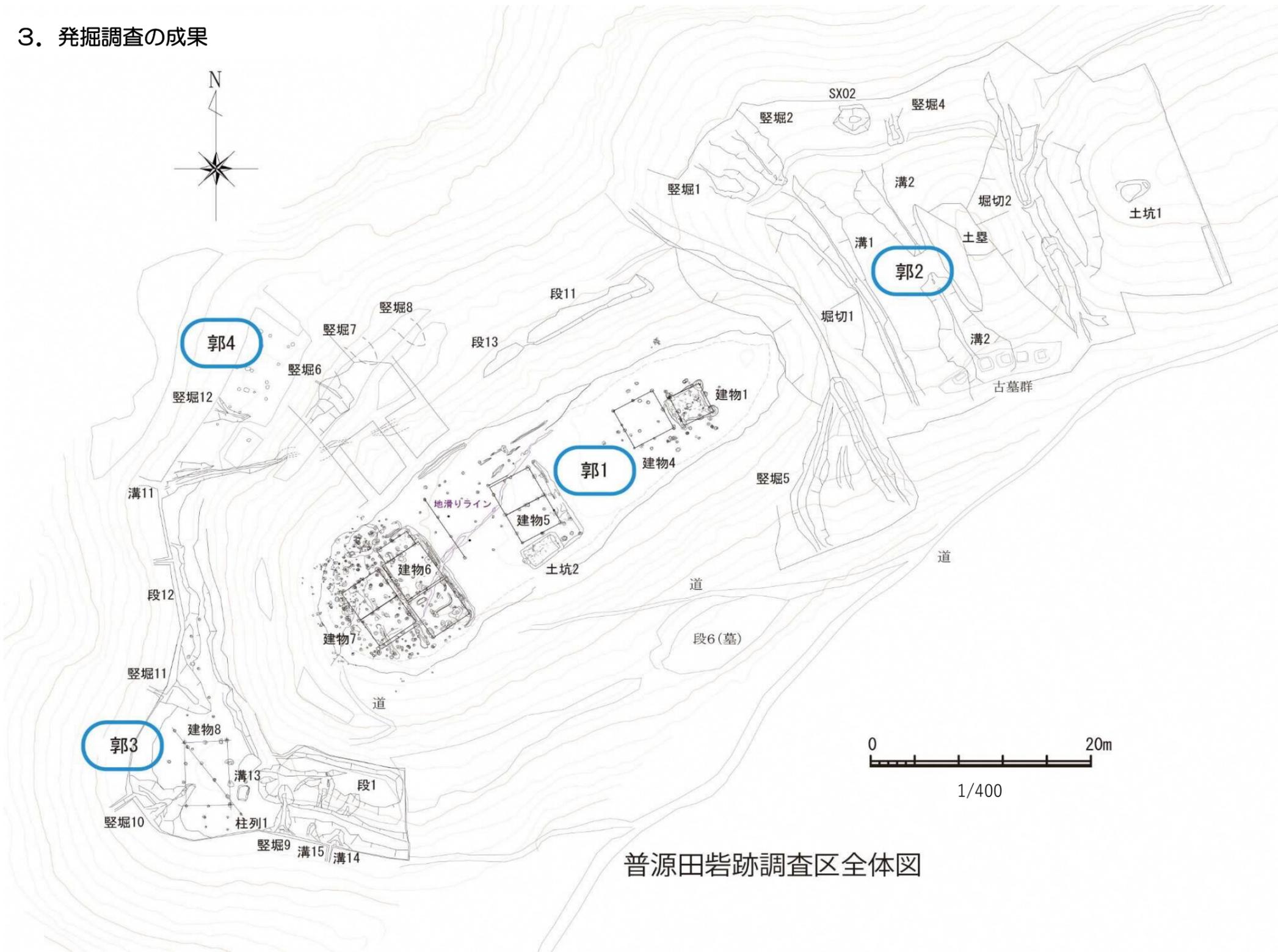
そのほか、郭1で江戸時代以降に発生した大規模な地滑りの痕跡を確認しました。



- 1 普源田砦跡
- 2 茶臼山城跡
- 3 高城跡（三隅氏居城）
- 4 鳶巣城跡（周布氏居城）
- 5 三宅御土居跡（益田氏居館）
- 6 七尾城跡（益田氏居城）

普源田砦跡と周辺の主な城館跡

3. 発掘調査の成果



普源田砦跡調査区全体図

大規模な地滑りの痕

郭1では、長さ約34mにわたって、最大で高さ約40cmの段差が見つかります。これは地滑りの痕跡で、地質の境目に沿って確認されました。郭1の建物が無くなり、建物が建っていた平坦地に石や土が堆積した後で地滑りが発生したことが分かっています。また、地滑りは長期間少しずつ起こったものでなく、一度にずれたと推測されます。この地滑りの詳しい時期や原因は分かりませんが、発掘調査によって過去の自然災害が明らかになった貴重な例です。



用語解説



● 郭・曲輪（くるわ）
山頂を削平し傾斜面を削った土を低い面に盛り上げたりして造られる平場。



● 堀切（ほりきり）
尾根伝いの攻撃を遮断するために、尾根筋に直角に掘り込んだ空堀。
● 土塁（どるい）
土を突き固めたり削り残したりして築かれた土手。



● 堀堀（たてぼり）
傾斜地での敵の横移動を防ぐために山腹に掘られた空堀。